



「海釣り」事前教材 ～お魚のごはんは何だ？（印刷用）

■ 概要

環境教育として「海釣り」を実施するときの、事前学習（食生/生息場所）用教材です。『お魚のごはん』カードに描かれた生物（餌）を見て、それを食べている魚の「口の形」を、指導者が出す『ヒント』をもとに、参加者それぞれが自由に考え、描いていきます。その後、実際にその餌を食べている生物を示し、餌生物とともに“すんでいる場所”を考えながら、漁港をイメージしてつくった『段ボール漁港』に配置します。

■ 学べること

- 魚によって食性が違い、口の形や生息場所も違うことを学びます。
- 海には多様な生きものがいることを知ることができます。
- 魚の食性を通して、海の生物が「食べる-食べられる（食物連鎖）」などの関連性でつながっていることを学びます。

■ 準備するもの

- ◆『お魚のごはん』カード
- ◆『海の生きもの』カード
- ◆『ヒント』カード
- *それぞれのカードは、「使用する教材」からダウンロードをしてA4版で印刷し、点線でカットします。ラミネートをしておくと、何度も使えます。
- ◆ワークシート『魚の口を描いてみよう！』…「使用する教材」からダウンロード。A4の白い紙を代用することもできます。
- ◆段ボール漁港…つくり方は「指導者資料」をご参照ください。
- ◆サインペン・クレヨンなど…絵を描くときに使います。
- ◆テープ…『お魚のごはん』『海の生きもの』カードを『段ボール漁港』に貼るのに使います。
- ◆はさみ

■ 実施の仕方

1. 『お魚のごはん』カードを見て、魚の口の形を想像して描いてもらいます。（1～4. 実施時間の目安：20～30分）

例：「みなさんは釣りをしたことがあるかな？ 釣りをするのに、いちばん大事なことは何だろう？ そう、魚たちのご



◎実施場所：室内
◎所要時間：30～45分



◆ポイント！

『お魚のごはん』カードは、2～3種類を組み合わせで出題します。これにより、すべての餌を食べている魚、どれか一つだけを食べている魚…と、さまざまな想像を導きます。





はんを知ることです。これから、みなでお魚のごはんを考えてみようよ！ 今から、みなにお魚のごはんを見てもらいます。ごはんを食べているお魚の口を想像して、絵を描いてみてください」

2. 魚の口の絵を描きやすくするために、『ヒント』カードを見せます。

『ヒント』カードは、参加者たちが、魚の「口の形」をイメージしやすくなるように作成したものです。

魚の口の形は、メインに捕食しているごはん（餌）を、食べやすくなるように進化した訳ではありません。その魚が生息している環境や、幼魚時代に過ごす環境などに適応するために進化したと考えられています。

あくまでも参加者の自由な発想を引き出すことを優先し、おおよそあり得ないような口の絵を描いたときでも「こんな口はありません…」などと、否定するのではなく、どうしてこのような口を書いたのかを聞いて、好意的な評価をしてください。魚の食性や、習性などの知識を伝えることを目的にしないようにしましょう。「この口の魚は、これも食べているかもね」と、幅を持たせた対応を。

魚釣りに、興味や関心が高まれば高まるほど、釣り場の自然や、釣りたい魚のことを「観察」しなければならないことに気付きます。その導入として、魚たちが食べている「ごはん」から、食べやすい口を想像する…。楽しい雰囲気の中かで、この『ヒント』カードを活用してください。

参加者がイマジネーションを広げ、釣り場に点在する、見えていない情報をつなぎ合せていくことで、『釣果』と呼ばれる成果が生まれます。

例：「みんなは、魚の口をじっくり見たことがあるかな？ じつは、魚によって口の形は違います。口の形を見ると、その魚がどんなものを食べているかだいたいわかります。ですので、ごはんを食べるためには、どんな口の向きや形をしていたら食べやすいかを考えると、絵が描きやすくなります。最初は、魚の口を想像するのが難しいと思うので、ヒントを出しますね」

●『ヒント』カードの内容

①ガバッと開く大きな口…大きな口は、他の魚をガバッと丸のみにするのに便利な口です。（フィッシュイーターなど）

②キスはお得意？ おちょぼ口…おちょぼ口は、海底に暮らすゴカイや貝など（ベントス系）を食べたり、岩に着いた海藻などをついばんだりするのに便利な口です。

③アイ～ンの口は「受け口」…受け口は、口の中に入ってきた

◆ポイント！

情報が無記入のカードには、必要に応じて別の口の形を自由に書き入れて、使用して下さい。





餌（動物プランクトン）を、しっかりためるのに便利な口です。
（プランクトンフィーダー）

④美人のあかしの「小口」…口が小さな魚の多くは、意外と「鋭い歯」をもっています。その歯で、小さいエビやカニの仲間（甲殻類）や、海藻に食いつき、かみ切るような食べ方をします。

⑤鯉のぼりみたいな、まんまる口…イワシのように、泳ぎながら一気にプランクトンを食べるのに便利な口です。あくびをしたときみたいに大きく開きます。

⑥何でもかんで、すりつぶす口 喉にも歯があるんだぞ！…口に入るものはとりあえず食べてみる、雑食性の魚に多い口です（おもにタイの仲間）。口には入れたけれどそのまま飲み込めないものは、喉の前にある「咽頭歯（いんとうし）」ですりつぶして食べます。

⑦とんがってるぜ!! くちばし口…くちばしのような口をした魚の多くは、細長い体をしています。他の魚を突き刺して食べたりするため、受け口ではなく上あごの方が長くなっています。

⑧にゅっと伸びる ストローみたいな口…海底の砂や泥のなかにひそんでいるゴカイなどのベントス類を、砂ごと吸い込むのに便利な口です。あごに収めたジャバラのような口が、餌を見つけたときにゅっと伸びます

3. 実際に食べている『海の生きもの』のカードを見せます。

魚の口の絵が描けたら、まずは参加者が描いた絵を『お魚のごはん』カードの周りに並べます。「なぜそのような絵を描いたのか」聞いてみましょう。このとき指導者は、見たことがないような独創的な絵も不正解とはせず、それぞれの発想を好意的に評価するようなコメントを添えていきます。

つぎに、実際にその餌を食べている生物の例を『海の生きもの』カードで示します。このときに、なぜ口がそのような形をしているのか、それぞれの理由も説明しましょう。

*生物の生態や生息場所は、『指導者資料』をご参照ください。
*参考資料：ファクトシート「海の生きもの IV 魚の体を知ろう！」

4. 2～3の行程を数回繰り返します。

『お魚のごはん（餌）』カードを替えて、できれば2～3回実施します。これによって、生物によって食べるものが違うこと、さまざまな「つながり」が、あることを伝えることができます。

◆ポイント！

複数枚の『お魚のごはん』カードを出しても、すべてを食べるものにこだわる必要はありません。また、正解にこだわらず、参加者が描いた絵に対しては「そういう生きものもいるかもしれない…」というようなまとめ方をしましょう。

◆ポイント！

できれば実際の魚の写真や映像を使って、口の特徴や食べ方を紹介しましょう。





5. 漁港をイメージしてつくった『段ボール漁港』に、生物のカードを貼り付けます。（実施時間の目安：10～15分）

①最初は『お魚のごはん（餌）』がどこにいるのか、それぞれの生息場所を考えながらテープで貼ります。

②『お魚のごはん（餌）』の場所をヒントに、餌を食べる生物（魚など）の生息場所を参加者と一緒に考えて、該当する場所に『海の生きもの』カードを貼っていきます。『海の生きもの』の生活スタイル（底にじっとしていることが多い、岩場に隠れている、泳ぎ回っている等）をヒントに、魚がいそうな場所を考えてみましょう。

③さまざまな生物が『段ボール漁港』に貼れたら、生きもの同士の「食べる-食べられる」などの関係を考え、「やじるし」を書いてつなげていきましょう。間違ったつながりが示されても、ここで修正をする必要はありません。

＊参考資料：ファクトシート「海の生きもの IV 魚の体を知ろう！」

6. 活動のまとめをしましょう。

感じたこと、気づいたことなどを発表してもらいましょう。参加者に釣りたい魚をあげてもらい、餌や釣る場所を考えて、実際に釣りに行くイメージをつなげるのもいいでしょう。

参加者が書いた食物連鎖をはじめとした「つながり」が本当にそうかどうか、あとで図鑑やインターネットで調べてみるように伝え、活動を終えます。別教材『餌の餌の餌は何？』などにつなげると効果的です。

例：「お魚の口にはいろんな形があることがわかりましたね。釣るためには、魚が何を食べているかを知ることが大事です。そして、餌を水中でどのようにしていたら、魚に見破られずに食べてもらえるかを考えるのも重要です。水中の魚の動きを想像しながら、釣りをしてみよう！」



＊注！

『段ボール漁港』は指導者資料を参考に、事前に作成しておいてもいいですし、時間があれば参加者と一緒に作成しても楽しいです。

◆ポイント！

3の行程まで使わなかった『お魚のごはん』や『海の生きもの』カードも加えて、いろいろな生きものを貼り付けていきましょう。地域でよく食べられている魚などの写真を加えて、貼ってみると学習がより身近なものになり効果的です。

◆ポイント！

最後に人間が食べる魚を考えてみましょう。「釣り竿」などを使って、釣りをイメージすると効果的です。

